

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-307035

(43)公開日 平成6年(1994)11月1日

(51) Int.Cl.<sup>5</sup>  
E 0 4 D 13/06

識別記号 廈内整理番号  
W 7416-2E  
A 7416-2E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 4 OL (全 4 頁)

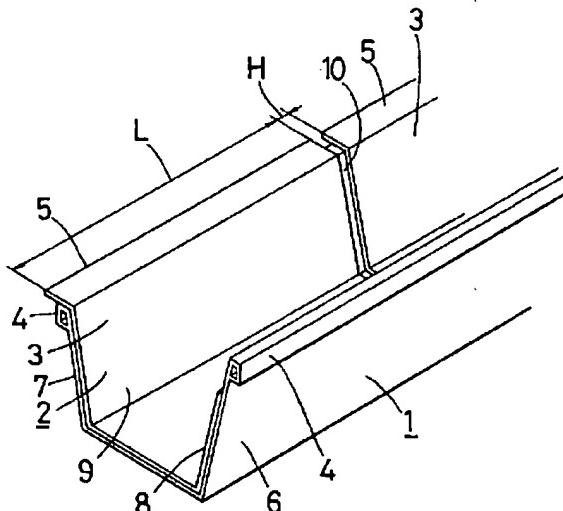
(21)出願番号	特願平5-101358	(71)出願人	000005832 松下電工株式会社 大阪府門真市大字門真1048番地
(22)出願日	平成5年(1993)4月27日	(72)発明者	福島 崇文 大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内
		(74)代理人	弁理士 佐藤 成示 (外1名)

(54)【発明の名称】軒 横

(57) 【要約】

**【目的】** ゴミ除去作業を簡単且つ安全に行なうことができ、しかも、ゴミ除去が充分になされるようになる軒樋を提供する。

【構成】 軒樋本体1の内周に沿った形状の内樋体2が同軒樋本体1内に着脱自在に設けられている。この内樋体2は、軒樋本体1の長手方向に分割された複数の内樋分割体3として形成されている。同内樋分割体3の上端縁には、軒樋本体1の上縁耳部4上に係止されて外方へ突出する鍔片部5が形成されている。この鍔片部5を掴んで軒樋本体1から内樋体2がゴミと共に簡単に取り外され、ゴミ除去された後に同内樋体2は再び軒樋本体1内に設置される。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 軒樋本体の内周に沿った形状の内樋体を同軒樋本体内に着脱自在に設けてなる軒樋。

【請求項2】 内樋体を軒樋本体の長手方向に分割された複数の内樋分割体としたことを特徴とする請求項1)記載の軒樋。

【請求項3】 内樋体の上端縁に軒樋本体の上縁耳部上に係止されて該上縁耳部より外方へ突出する鍔片部を形成したことを特徴とする請求項1)又は請求項2)記載の軒樋。

【請求項4】 軒樋本体が前壁部よりも後壁部が低いものであって、該後壁部の上縁耳部上には内樋体の鍔片部が係止され、同内樋体の前板部の上端縁は軒樋本体の前壁部の上縁耳部にまで至ることなく同前壁部の内面に当接されていることを特徴とする請求項3)記載の軒樋。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、軒先において屋根先より流下する雨水を受ける軒樋であって、軒樋本体内にゴミ除去用の内樋体を設けてなる軒樋に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 従来から、図6に示す如く、軒先において屋根先より流下する雨水を受ける軒樋(イ)は知られている。該軒樋(イ)は、軒先前面(ロ)に取着固定される樋支持具(ハ)によって吊下保持されている。この場合、軒樋(イ)の両上縁耳部(ニ)が樋支持具(ハ)の両樋耳保持部(ホ)に各々係止されることによって、同軒樋(イ)は樋支持具(ハ)に吊下保持されている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 上記従来の技術においては、屋根先から雨水と共に土砂、埃等のゴミが流下して軒樋(イ)内に堆積するものであり、これを放置しておくと同軒樋(イ)内の雨水の流れに支障を來すようになる。すなわち、ゴミは軒樋(イ)の内周面に乾燥付着して剥がれ難くなり、その堆積量は時と共に増大し、もはや同ゴミは雨水と共に排水除去されなくなってしまう。そこで、定期的に同ゴミを軒樋(イ)から除去する必要があるのであるが、従来においては、屋根上や梯子の上に上って、樋支持具(ハ)に保持された状態の軒樋(イ)の内面に付着したゴミを、スコップ、へら等の道具を使用して剥がし取り、該剥がし取ったゴミをバケツ、洗面器等の容器に収容して地上へ持ち下ろして除去している。しかしながら、このゴミ除去作業は、高所で行われて危険であると共に、ゴミを剥がし取るのに大変な手間を要し、又、充分にはゴミ除去がなされ難いものであった。

【0004】 本発明は、上記従来の技術における問題を解決するために発明されたもので、すなわちその課題は、ゴミ除去作業を簡単且つ安全に行うことができ、し

2

かも、ゴミ除去が充分になれるようになる軒樋を提供することである。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明の軒樋は、軒樋本体の内周に沿った形状の内樋体を同軒樋本体内に着脱自在に設けてなり、この構成によって上記課題が解決されたものである。

【0006】 又、請求項2)記載の軒樋においては、内樋体が軒樋本体の長手方向に分割された複数の内樋分割

10 体として形成されており、又、請求項3)記載の軒樋においては、内樋体の上端縁に軒樋本体の上縁耳部上に係止されて該上縁耳部より外方へ突出する鍔片部が形成されており、又、請求項4)記載の軒樋においては、軒樋本体が前壁部よりも後壁部が低いものであって、該後壁部の上縁耳部上には内樋体の鍔片部が係止され、同内樋体の前板部の上端縁は軒樋本体の前壁部の上縁耳部にまで至ることなく同前壁部の内面に当接されている。

## 【0007】

【作用】 本発明の軒樋にあっては、軒樋本体の内周に沿った形状の内樋体が同軒樋本体内に着脱自在に設けられているため、内樋体が装着された状態でも軒樋本体内を雨水は支障なく流れ、又、土砂、埃等のゴミは内樋体上に堆積するが、該内樋体を堆積したゴミと共に軒樋本体から取り外して地上へ下ろし、同ゴミを洗い流す等して充分に除去ができるものであり、又、ゴミ除去された内樋体は再び軒樋本体内に着脱自在に設置される。

【0008】 又、請求項2)記載の軒樋にあっては、内樋体が軒樋本体の長手方向に分割された複数の内樋分割20 体として形成されているため、各内樋分割体毎に取り外すことができて、その取り外し作業、及び、運搬、洗浄作業が容易となる。

【0009】 又、請求項3)記載の軒樋にあっては、内樋体の上端縁に軒樋本体の上縁耳部上に係止されて該上縁耳部より外方へ突出する鍔片部が形成されているため、該鍔片部が軒樋本体の上縁耳部上に係止されることによって、内樋体が軒樋本体内に確実に保持され、しかも、同鍔片部を掴んで内樋体を軒樋本体内から簡単に取り外すことができる。

40 【0010】 又、請求項4)記載の軒樋にあっては、軒樋本体が前壁部よりも後壁部が低いものであって、該後壁部の上縁耳部上には内樋体の鍔片部が係止され、同内樋体の前板部の上端縁は軒樋本体の前壁部の上縁耳部にまで至ることなく同前壁部の内面に当接されているため、上記請求項3)記載の軒樋において、内樋体或いは鍔片部が同軒樋本体の前側から見え難くなつて外観が良好となる。

## 【0011】

【実施例】 図1、図2に示す軒樋は、本発明の一実施例50 で、軒樋本体1の内周に沿った形状の内樋体2を同軒樋

本体1内に着脱自在に設けてなるものである。内樋体2は軒樋本体1の長手方向に分割された複数の内樋分割体3として形成されている。同内樋体2となる内樋分割体3の上端縁には、軒樋本体1の上縁耳部4上に係止されて該上縁耳部4より外方へ突出する鈍片部5が形成されている。この場合、軒樋本体1が前壁部6よりも後壁部7が低いものであって、該後壁部7の上縁耳部4上には内樋体2となる内樋分割体3の鈍片部5が係止され、同内樋分割体3の前板部8の上端縁は軒樋本体1の前壁部6の上縁耳部4にまで至ることなく同前壁部6の内面に当接されている。

【0012】軒樋本体1は、前壁部6と該前壁部6よりも低い後壁部7を有する角型樋形状で、合成樹脂にて一体に押出成形されたものであり、同前壁部6及び後壁部7の上端縁には各々中空状の上縁耳部4が一体に形成されている。

【0013】内樋分割体3は、同軒樋本体1の内周に沿った形状に形成され、その前板部8と後板部9とは略同一高さに形成されており、該後板部9の上端縁に外方へ折曲した鈍片部5が全長にわたって形成されている。又、同内樋分割体3は、合成樹脂にて一体に押出成形したもので定尺長さ寸法L(30cm程度)に切断して形成されたものであり、軒樋本体1内に長手方向に複数並設される。この場合、各内樋分割体3の端部間に適宜間隔寸法Hの隙間10が形成されるが、該間隔寸法Hは極力小さくする方が良い。又、同内樋分割体3は、施工現場において適宜長さ寸法Lに切断されて使用されても良いものである。

【0014】軒樋本体1及び内樋体2は、軒先前面11に固定される樋支持具12によって吊下保持されるものである。該樋支持具12の前後には各々略コ字型に屈曲した樋耳保持部13が形成されており、該両樋耳保持部13に軒樋本体1の両上縁耳部4が各々係止されることによって、同軒樋本体1は内樋体2と共に樋支持具12に吊下保持される。

【0015】したがって、該実施例の軒樋にあっては、軒樋本体1の内周に沿った形状の内樋体2が同軒樋本体1内に着脱自在に設けられているため、内樋体2が装着された状態でも軒樋本体1内を雨水は支障なく流れ、又、土砂、埃等のゴミ14は内樋体2上に堆積するが、該内樋体2を堆積したゴミ14と共に軒樋本体1から取り外して地上へ持ち下ろし、同ゴミ14を洗い流して充分に除去することができ、ゴミ除去作業を簡単且つ安全にしかも充分に行うことができるものであり、又、ゴミ除去された後、内樋体2は再び軒樋本体1内に着脱自在に設置される。

【0016】又、内樋体2が軒樋本体1の長手方向に分割された複数の内樋分割体3として形成されているため、各内樋分割体3毎に取り外すことができて、その取り外し作業、及び、運搬、洗浄作業が容易に行われる。

【0017】又、内樋体2の上端縁に軒樋本体1の上縁耳部4上に係止されて該上縁耳部4より外方へ突出する鈍片部5が形成されているため、該鈍片部5が軒樋本体1の上縁耳部4上に係止されることによって、内樋体2が軒樋本体1内に確実に保持され、しかも、同鈍片部5を摺んで内樋体2を軒樋本体1内から簡単に取り外すことができる。

【0018】又、この場合、軒樋本体1が前壁部6よりも後壁部7が低いものであって、該後壁部7の上縁耳部4上には内樋体2の鈍片部5が係止され、同内樋分割体3の前板部8の上端縁は軒樋本体1の前壁部6の上縁耳部4にまで至ることなく同前壁部6の内面に当接されているため、内樋体2或いは鈍片部5が同軒樋本体1の前側から見え難くて外観良好となっている。

【0019】又、同実施例において、図3、図4に示す如く、内樋分割体3の一方の端部に屈曲段部15を形成しても良いものである。この場合は、軒樋本体1内で同屈曲段部15が隣接する内樋分割体3の他方の端部上に重合され、内樋分割体3の端部間に隙間10が発生しないよう施工される。又、同屈曲段部15の水上側基部の外面には傾斜段面部16が形成されており、雨水の流れはスムーズでゴミの溜まりも防止される。

【0020】なお、本発明の軒樋においては、図5に示す実施例の如きであっても良いものである。すなわち、該実施例の軒樋においては、軒樋本体1及び内樋体2が断面略半円弧形状で、いずれもアルミニウム、銅、ステンレス等の金属板にて形成されたものである。又、同軒樋本体1及び内樋体2は、樋支持具12によって下側から保持されている。

### 30 【0021】

【発明の効果】上述の如く、本発明の軒樋にあっては、軒樋本体の内周に沿った形状の内樋体が同軒樋本体内に着脱自在に設けられているため、内樋体が装着された状態でも軒樋本体内を雨水は支障なく流れ、又、土砂、埃等のゴミは内樋体上に堆積するが、該内樋体を堆積したゴミと共に軒樋本体から取り外して、ゴミ除去作業を簡単且つ安全にしかも充分に行うことができる。

【0022】又、請求項2)記載の軒樋にあっては、内樋体が軒樋本体の長手方向に分割された複数の内樋分割体として形成されているため、各内樋分割体毎に取り外すことができて、その取り外し作業、及び、運搬、洗浄作業等が容易となる。

【0023】又、請求項3)記載の軒樋にあっては、内樋体の上端縁に軒樋本体の上縁耳部上に係止されて該上縁耳部より外方へ突出する鈍片部が形成されているため、該鈍片部が軒樋本体の上縁耳部上に係止されることによって、内樋体が軒樋本体内に確実に保持され、しかも、同鈍片部を摺んで内樋体を軒樋本体内から簡単に取り外すことができる。

【0024】又、請求項4)記載の軒樋にあっては、軒

5

樋本体が前壁部よりも後壁部が低いものであって、該後壁部の上縁耳部上には内樋体の鍔片部が係止され、同内樋体の前板部の上端縁は軒樋本体の前壁部の上縁耳部にまで至ることなく同前壁部の内面に当接されているため、上記請求項3)記載の軒樋において、内樋体或いは鍔片部が同軒樋本体の前側から見え難くなつて外観が良好となる。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例である軒樋を示す斜視図である。

【図5】本発明の別の実施例である軒樋の施工状態を示す断面図である。

【図6】本発明の従来例である軒樋の施工状態を示す断面図である。

## 【符号の説明】

- 1 軒樋本体
- 2 内樋体
- 3 内樋分割体
- 4 上縁耳部
- 5 鍔片部
- 6 前壁部
- 7 後壁部
- 8 前板部

10

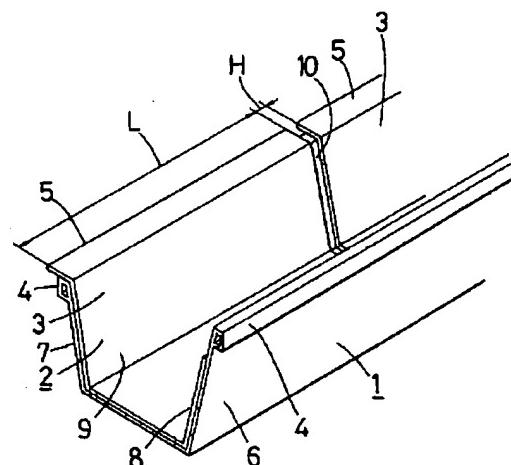
【図2】同軒樋の施工状態を示す断面図である。

【図3】同実施例において使用される別の内樋体を示す斜視図である。

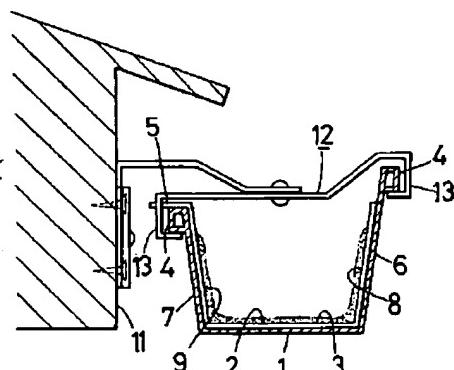
【図4】同内樋体の接合状態を示す要部断面図である。

6

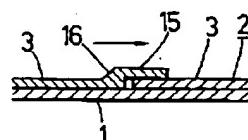
【図1】



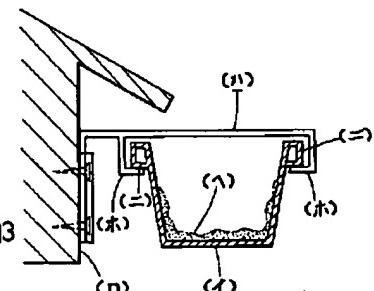
【図2】



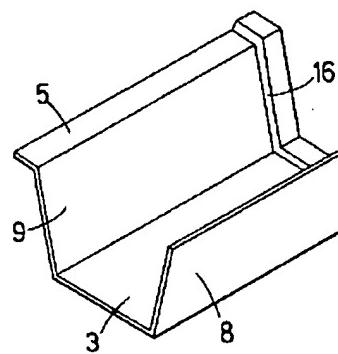
【図4】



【図6】



【図3】



【図5】

